第30回環境保全・公害防止研究発表会の概要

徳島県保健環境センター

環境省，全国環境研協議会および徳島県の主催により，第30回環境保全・公害防止研究発表会が平成15年10月30日㈭，31日㈮の両日にわたって徳島県郷土文化会館で開催されました。

第１日目は主催者のあいさつに続いて基調講演およびパネルディスカッション，第２日目は一般発表が行われました。第１日目は会員(66機関)，行政機関，企業，NPO および一般から約420名，第２日目が約200名の延べ620名の参加があり，成功裡のうちに終了しました。２日間の日程は第30回環境保全・公害防止研究発表会日程表のとおりです。

第１日目は，主催者を代表して松本環境省総合環境政策局長（代理：齊藤総合環境政策局環境研究技術室長），全国環境研協議会の須藤会長および徳島県知事からそれぞれあいさつがありました。

松本局長はあいさつの中で，

「今日の環境問題は地球温暖化防止や廃棄物対策，さらにはダイオキシン，環境ホルモンの削減，生物多様性の保全といった問題まで非常に幅広く，かつ複雑化，多様化してきております。地球温暖化問題をはじめ循環型社会の形成，自然と共生する社会の実現，都市における大気汚染，化学物質による環境リスク対策，また健全な水循環の確保，環境保全活動の活性化など，環境省として取り組むべき課題は山積しております。こうした多様な環境問題に適切に対処していくためには，その科学的基盤となる環境研究あるいは技術開発の一層の充実推進が重要な要素の一つになると考えております。

地方には環境研究の対象としてのフィールドが

主催者を代表して松本環境省総合環境政策局長のあいさつを代読される齊藤環境研究技術室長

主催者あいさつをされる須藤全国環境研協議会会長

開催県を代表してあいさつをする飯泉徳島県知事

第30回環境保全・公害防止研究発表会日程表

会場：徳島県郷土文化会館

<table>
<tr><td>平成15年
10月30日㈭</td><td colspan="2">1階　ホール</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">○開会(13：00～13：15)
開会のことば　徳島県保健環境センター所長　三木　教碩
主催者あいさつ　環境省総合環境政策局長　松本　省藏
全国環境研協議会会長　須藤　隆一
徳島県知事　飯泉　嘉門
○基調講演(13：20～14：20)
演　題「地球温暖化研究の最前線」
講　師　原沢　英夫（独立行政法人国立環境研究所社会環境システム研究領域環境計画研究室長）
座　長　須藤　隆一（全国環境研協議会会長　埼玉県環境科学国際センター総長）
○パネルディスカッション(14：30～17：00)
テーマ　「地球温暖化防止推進への取組」
コーディネーター　植田　和弘（京都大学大学院経済学研究科地球環境学堂教授）
パネラー　清水　康弘（環境省地球環境局地球温暖化対策課長）
薦田　直紀（広島県地球温暖化防止活動推進センター地域活動支援センター長）
谷口　　実（社団法人日本自動車工業会環境統括部長）
宮下　晃一（鳴門教育大学助教授）
浅岡　美恵（気候ネットワーク代表）
コメンテーター　原沢　英夫</td></tr>
<tr><td>10月31日㈮</td><td colspan="2">研究発表会(9：30～16：50)</td></tr>
<tr><td></td><td>5階小ホール</td><td>4階大会議室</td></tr>
<tr><td></td><td>○大気Ⅰ，Ⅱ(9：30～12：10)
分析方法，大気調査，騒音等</td><td>○水質Ⅰ，Ⅱ(9：30～12：10)
分析方法，有害物質等</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">休憩</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">○ポスター発表（12：30～13：30）　4階会議室2</td></tr>
<tr><td></td><td>5階小ホール</td><td>4階大会議室</td></tr>
<tr><td></td><td>○地球温暖化・化学物質Ⅰ，化学物質Ⅱ
（13：30～16：30）
調査解析，残留農薬，環境ホルモン等</td><td>○水質Ⅲ（13：30～14：30）
河川調査等

○環境生物Ⅰ，Ⅱ（14：30～16：50）
【特別発表】
水環境と生物多様性に関する研究の展望
渡邉　信（国立環境研究所）
自然環境，水質浄化，調査解析等</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">○閉会（16：50～17：00）4階大会議室
閉会あいさつ　環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室長　齊藤　眞</td></tr>
</table>

多数あり，さらにこれまで培ってきた分析技術や蓄積されたノウハウなどもございます。また，地域の環境状況に精通した研究者が多くいらっしゃる。こういったことから地域の環境研究所が環境研究技術開発に取り組んでいくということはさまざまな問題の解決につながり，非常に意義の深いものになると考えられます。環境省といたしましては，全国環境研協議会ならびに関係機関の皆様

方と連携を保ちながら，着実に環境研究技術開発の推進に取り組んでまいる所存でございます。

今回の研究発表会では，地球温暖化問題に焦点を当て，地球温暖化研究の最前線「地球温暖化防止推進への取組」と題して，基調講演およびパネルディスカッションを行うこととしています。これらのプログラムが，今後の地球温暖化防止に向けた研究や技術開発のあり方，およびその推進方策を考える一助となればと考えております。」
と話されました（齊藤室長代読）。

次に全国環境研協議会の須藤会長は，
「この協議会はご承知のとおり，全国にある66の研究機関が集まってできている機関でございまして，さまざまな活動をやっていただいております。そして，とくにこのような経済状況が厳しい折に，その地方の環境研究所の活性化ということを今後考えないといけない時期にまいっておりまして，そのことにつきましても，今齊藤室長からいろいろお話がございましたが，今後この協議会が活性化するように，微力ながら私は尽くしていきたいと，こう考えているわけでございます。本日はこの第30回という一つの節目でございます。この徳島の地において，このような素晴らしい会場で皆様方と交流できることをたいへんうれしく思っております。本日基調講演をしていただく原沢先生，パネルディスカッションにご出演をいただく予定になっております植田先生，清水先生，薦田先生，谷口先生，宮下先生，浅岡先生にも厚くお礼を申し上げたいと思います。」
とあいさつされました。

また，徳島県の飯泉知事は，
「21世紀は環境の世紀というふうにいわれておりますが，これを受けまして，徳島県におきましても県政推進に７つの柱を掲げておりますが，その中で環境首都とくしまの実現というものを掲げ，あらゆる施策に環境の視点を取り入れるということで全県的な施策を展開をしているところであります。またとくにその中で，地球温暖化の問題などもあるわけでございますが，ごみあるいは二酸化炭素の排出量最小県，これをめざすための地球環境ビジョン，こういったものを作りまして，そして全国に先駆けれるような，そういう施策展開をしていこうということで今取り組んでいるところでございます。とくに地球温暖化の問題につきましては，本日のテーマの一つでもありますが，この中につきましては低公害車の導入はもとより，今申し上げました二酸化炭素，あるいはごみの排出の最小県ということをめざすためにも，太陽光ですとかあるいは風力に対する新エネルギーへの転換の問題ですとか，あるいはゼロエミッション，こういった形で，今施策を，官だけではなくて県民の皆さん，また事業者の皆さん，この三位一体で積極的に展開をしていこうと，このように考えてる次第であります。

また，明日の研究発表会におかれましては，各県の皆さんのさまざまな先進的な取組みが発表されるとお伺いをいたしております。ぜひとも各県の皆さんのいろいろな発表を，それぞれの県にお持ち帰りをいただきまして，各県同士が切磋琢磨をいたしますとともに，お互いが交流の輪を広げる，そういういい絶好の機会になることを心から祈念を申し上げたいと存じます」
とのあいさつがありました。

第２日目の発表は以下のとおりです。

１．研 究 発 表

会場：５階小ホール

○大気Ⅰ　9：30～10：50

座長：力　　寿雄(福岡県保健環境研究所)

①　降下ばいじんについて―海水由来による地域比較―
有本光良ほか(和歌山県環境衛生研究センター)

②　新潟県における大気浮遊粉じんモニタリング
廣田由紀ほか(新潟県保健環境科学研究所)

③　西日本におけるオキシダント濃度の特徴
藤原　誠ほか(島根県保健環境科学研究所)

④　大阪府域における大気中フロン類の濃度について
中戸靖子ほか(大阪府環境情報センター)

○大気Ⅱ　10：50～12：10

座長：岩崎　幹男(香川県環境保健研究センター)

⑤　低濃度臭気の嗅覚測定のための低温濃縮法
増田淳二ほか(大阪市立環境科学研究所)

⑥　高活性炭素繊維を用いた環境大気浄化に関する研究―窒素酸化物の吸着及び酸化･還元反応―

力　寿雄ほか(福岡県保健環境研究所)

⑦　富山県の平野部における融雪水のイオン成分について

奥村秀一ほか(富山県環境科学センター)

⑧　岡山空港滑走路3000m 化に伴う航空機騒音レベルの変化について

中桐基晴ほか(岡山県環境保健センター)

○地球温暖化・化学物質Ⅰ　13：30～15：10

座長：内田　勝三(和歌山県環境衛生研究センター)

①　地域における家庭のエネルギー消費実態

工藤　浩ほか(岩手県環境保健研究センター)

②　PRTR 対象農薬の地域別排出量推計法の検討

池貝隆宏ほか(神奈川県環境科学センター)

③　ゴルフ場農薬（イミノクタジン酢酸塩，ホセチル，その他 GC/MS で測定し難い農薬）の LC/MS/MS による測定について

大野ちづ子(徳島県保健環境センター)

④　船底防汚物質による沿岸域汚染の現状

張野宏也ほか(大阪市立環境科学研究所)

⑤　不正軽油ならびに硫酸ピッチの分析結果

天野冴子ほか(東京都環境科学研究所)

○化学物質Ⅱ　15：10～16：30

座長：和田　佳久(秋田県環境センター)

⑥　廃棄物埋立処分場排水における環境ホルモンの実態（化学分析とバイオアッセイ）

笹井春雄ほか(長野県衛生公害研究所)

⑦　埼玉県の鴨川におけるノニルフェノール，ノニルフェノールエトキシレートの挙動

茂木　守ほか(埼玉県環境科学国際センター)

⑧　都市部中小河川におけるダイオキシン類組成の特徴について―特異的な異性体組成と分析上の問題点―

熊谷宏之ほか(福井県衛生環境研究センター)

⑨　神崎川上流部におけるダイオキシン類の調査結果について

竹中　昇ほか(大阪府環境情報センター)

会場：４階大会議室

○水質Ⅰ　9：30～10：50

座長：張野　宏也(大阪市立環境科学研究所)

①　固相抽出カートリッジを用いた海水中の重金属類の分析

井上和幸(石川県保健環境センター)

②　固相抽出による海水中の金属分析について

澄田和歌子ほか(山口県環境保健研究センター)

③　キレートディスク濃縮/ICP-AES による排水中重金属の定量法の検討

林　光一ほか(川崎市公害研究所)

④　窒素安定同位体比測定における水試料濃縮方法について

吉留竜仁ほか(愛媛県立衛生環境研究所)

○水質Ⅱ　10：50～12：10

座長：杉山　広和(岡山県環境保健センター)

⑤　簡易 UV 計による有機汚濁測定法の発展途上国を対象とした水質モニタリング研修

佐藤邦彦ほか(三重県科学技術振興センター保健環境研究部)

⑥　姉沼川水系における鉛の挙動―水質，底質及び大気モニタリング調査による環境基準値超過要因の解明―

三上　一ほか(青森県環境保健センター)

⑦　茨城県神栖町における地下水砒素事案

友部正志ほか(茨城県公害技術センター)

⑧　クロルピリホスが原因と思われる魚へい死事故について

廣田敏郎ほか(福岡市保健環境研究所)

○水質Ⅲ　13：30～14：30

座長：土佐　政二(徳島県保健環境センター)

⑨　八幡川水系における水質の推移

橋本和久ほか(広島市衛生研究所)

⑩　20年前と比較した斐伊川の水質

狩野好宏ほか(島根県保健環境科学研究所)

⑪　河川水質と流域環境との関係について

渡邉　博ほか(愛知県環境調査センター東三河支所)

○環境生物Ⅰ　14：30～15：30

座長：根岸　正美(茨城県公害技術センター)

【特別発表】水環境と生物多様性に関する研究の展望

渡邉　信(国立環境研究所)

①　中海における赤潮発生機構調査について

道上隆文ほか(鳥取県衛生環境研究所)

②　児島湖流入河川下流域における内部生産

藤田和男ほか(岡山県環境保健センター)

○環境生物Ⅱ　15：30～16：50

座長：南條　吉之(鳥取県衛生環境研究所)

③　海藻を活用した水質浄化事業について
小山孝昭ほか(宮城県保健環境センター)
④　涸沼におけるヤマトシジミの生育環境及び水質浄化機能
根岸正美ほか(茨城県公害技術センター)
⑤　福島県におけるハクチョウ類の鉛中毒について
大嶋恵美ほか(福島県環境センター)
⑥　松山城における鳥類20年間の変化について
髙松公子ほか(愛媛県立衛生環境研究所)

会場：４階会議室２

ポスター発表　12：30～13：30

①　徳島県における二酸化炭素濃度について
伊延悟史ほか(徳島県保健環境センター)
②　茨城県における揮発性有害大気汚染物質について
森田陽一(茨城県公害技術センター)
③　コリジョン型 ICP-MS による環境試料中の金属分析への適応性
安部隆司ほか(岩手県環境保健研究センター)
④　微生物および培養細胞を用いた変異原性試験と排水試料への適用
山守英朋ほか(名古屋市環境科学研究所)
⑤　河川水中のダイオキシン類の濃度と懸濁物質量との関係について
石川英樹ほか(香川県環境保健研究センター)
⑥　岐阜県内河川環境中ダイオキシン類の汚染起源と寄与率
安田　裕ほか(岐阜県保健環境研究所)